

平成 20・21 年度 長野県がん看護臨床実務者研修会の報告と今後の課題

20.21 Heisei workshop report

and future challenges of cancer nursing clinical practice fiscal Nagano

がん化学療法看護認定看護師 ○百瀬 華子 宮下 幸恵

がん性疼痛看護認定看護師 越 由香里 伊藤 紗弥香

はじめに

がんは昭和56(1981)年からわが国の死亡原因の第1位である。そして、全国的ながん患者数の増加に伴いがん看護の質の向上に対するニーズが高まっている。政府は、平成19年にがん対策基本法を制定し、「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上」を一目標としたがん対策推進基本計画を立案した。その中に、「がん医療の均てん化の促進」があり、がん看護に携わる全ての看護師が、最新のエビデンスに基づいた標準的なケアを提供しなければならない。しかし、がん看護は専門性の高い幅広い知識や技術を必要とされるため、各施設で提供されるケアにはばらつきがあると考えられる。

そこで、長野県がん診療拠点病院である当院のがん看護関連認定看護師が中心となり、厚生労働省からの委託事業である専門分野における質の高い看護師育成事業「がん看護の実務者研修」の企画・運営を行った。県内のがん看護の質の向上と均点化を目標とし、自施設でがん看護におけるリーダー的役割を担える看護師を育成するため2回の研修を終えたため、その内容と今後の課題を報告する。

方法

《目的》がん患者に対する看護の充実のため、臨床能力の高い、指導的役割が担える看護師の育成を図る

《対象者》①実務経験が5年以上かつがん看護の経験があるもの②所属長の推薦があり、研修後指導者的役割が担えるもの③主体的に研修に取り組む意欲があるもの④研修期間全日程を受講できるもの

《主催》長野県

《平成20年度》参加者：9名。期間：平成20年11月17日(月)から平成21年1月30日(金)までの39日間。研修指導者：当院認定看護師4名。実習機関：信州大学医学部附属病院 内容：研

研修期間中8日間はがん治療や看護に関する講義、28日間は臨床実習。臨床実習の内訳は病棟実習、緩和ケア病棟・訪問看護ステーション見学実習、通院治療室実習。病棟では2事例のケースを受け持ち、看護展開し実際にケアを提供した。そのうち1事例をケースレポートとしてまとめ、最終日に発表を行った。

《平成21年度》参加者6名。期間：平成21年9月7日(月)から平成21年10月30日(金)までの36日間。研修指導者：当院を含めた県内のがん看護関連認定看護師8名。実習機関：信州大学医学部附属病院・長野市民病院・長野赤十字病院・佐久総合病院の4施設。内容：7日間はがん治療や看護に関する講義、持参した事前課題の事例検討6事例、26日間は臨床実習を行った。臨床実習の内訳とケースレポートについては平成20年度と同様である。

《研修評価》研修終了後平成20年度、平成21年度の研修生に実務者研修会についてのアンケート調査を行った。また、平成20年度研修生には研修終了1年経過しフォローアップ調査のためのアンケート調査を行った。

倫理的配慮

アンケートで個人が特定されないような配慮を行った。

考察

キャリア開発支援の観点から見た「継続教育」の枠組みの中に、ジェネラリストの能力開発を促進する教育があり、この実務者研修は看護職個人が社会のニーズなどに応じ、キャリアをデザインし目標達成に必要な能力の向上にむけて、自己責任のもとに取り組む研修である。成人への教育において、成人は自己決定的であったり、今までに多様な経験をもち、自分の興味のあることなどはいっそう進んで学習する。また、問題中心的または作業中心的な学習を好む性質がある。よって、各成人の発達やレディネスを考慮した上で、プログラムを組み立てなければならない。

平成20年度の研修においては、一からのプログラムの組み立てとなり、他県の研修プログラムなどを参考にしながら研修の企画を行ったが研修生のレディネスの把握の方法などが考慮できていなかったことが考えられる。実際に受け持ち患者の看護展開をする上でアセスメントができなかった研修生が多く、終了後のアンケートにおいてアセスメントの講義を希望する意見が多く聞かれた。各研修生の所属病院の規模や研修以前に行ってきたがん看護の違いがあったため、レディネスの異なる集団への指導の難しさを感じた。よって、事前に研修生のレディネスを把握しそれに応じた指導を行う必要であると考えられた。そこで平成21年度の研修では、研修生が自施設で行ってきたが

ん看護の事例を持参してもらい確認することで、指導者側が研修生のレディネスを把握する1つの手段となり、個々に合わせた指導につなげることができたと思われる。また、その事例を使用し研修生全員で事例検討をする事でより多くの視点に気がつき、それらを実習に役立てることができたと考える。

次に、平成20年度研修生のアンケートより専任指導者の配置希望が多かったため、平成21年度は実習施設の分配や長野県内のがん看護関連認定看護師の協力を得ることで、研修生の研修に対する満足度が上がった。これは、通常業務と研修指導を兼任していた私達の負担が減少し、研修指導に十分な時間をとることができたためだと思われる。

今後の課題

今後の課題としては、この研修の目標を達成すべく、修了後の研修生の動向を調査し自施設にて指導者的役割を担えがん看護の質が向上に繋がったかを確認していかなければならない。また、研修を終えても日々自己研鑽が必要であるため、研修生のフォローアップ体制を整える事やがん看護の質向上のため、長野県内のネットワークをより強固なものにしていくよう働きかけていかなければならないと考える。

まとめ

長野県内のがん患者の増加に伴い、長野県内のがん看護の均てん化を図るために、長野県がん診療拠点病院である当院がリーダーシップを取り、長野県のがん看護の質の向上に向けて働きかけなければならない。また、このがん看護実務者研修会は、成人のジェネラリストの能力開発を促進する教育であり、成人教育という概念をもちプログラムを組み立て、企画していかなければならない。次回の研修においてはプログラムの再構築を行い、事例検討会などを用い研修生のレディネスをきちんと把握した上で、学びの多い研修となるよう今後も支援したいと考える。

また、長野県内のがん看護関連認定看護師数増加もあるため、ネットワークを構築し県内の認定看護師からもがん看護の質の向上に向けて尽力していきたい。

平成20年度 長野県がん看護臨床実務者研修会 アンケート

回収 全9名

評価項目	評価	意見	
1. 研修計画			
1) 教育計画	(1) 全体の目標設定	1 適切 7名 2 適切でない 1名	・40日間で達成可能な目標とは思えない
	(2) 講義内容	1 適切 6名 2 適切でない 3名	・内容は適切だが時間が短かった・アセスメントの講義をして欲しかった ・9名の研修生のために、きちんと準備された講義で有意義であった ・「実践」する時間がもっと欲しい(リンパマッサージ) ・時間が無くて最後の方が詰まってしまった講義は残念だった ・リンパマッサージはもう少し時間が欲しかった
	(3) 実習	1 適切 3名 2 適切でない 5名	・病棟実習は受け入れ側も慣れていなかったし、受講生も慣れるまで大変だった ・長すぎたり短かったり ・日数を詰め込みすぎ ・2箇所の実習より1箇所をもう少し長くした方が良かった ・ケースを取るのもよいが、実際の認定看護師等の活動をもっと学びたかった ・外科系と内科系と実習出来てよかった ・どこに視点を置くのか明確でなかった
	(4) 緩和ケア実習	1 適切 4名 2 適切でない 5名	・1日だけでは全体を捉えるだけで終わってしまう・症状緩和、終末期の看護は不可欠であり、見学だけではなく、きちんとホスピスで実習したいと思った ・もう少し時間数が多いといい ・実習してみたかった ・実習と言うより施設見学だったので、もっと時間があつた方がなんらかの実習が出来ると思う ・1日ずつだったので、もう少し日数が欲しかった ・見学実習ならこのような形でも良い
	(5) 在宅実習	1 適切 7名 2 適切でない 2名	・見学実習なら、この様な形でよい ・研修日にがん患者さんがいないと残念 ・がん患者さんの在宅実習ができなかったのが残念 ・1日ずつだったのでもう少し日数が欲しかった ・がん患者でなくとも病気を捉えた方がどんな支援を受け、どう家で過ごしているのかを知る事ができた
	(6) カンファレンスの実施	1 適切 5名 2 適切でない 3名	・研修生の自主性で行うのはいいが、カンファレンスの良し悪しが評価されず不安 ・議題を搾り出すのに困った ・週1回必要・その都度指導者の意見が欲しかった
	(7) ケースレポートの発表	1 適切 7名 2 適切でない 2名	・もう少しまとめる時間が欲しかった
	(8) カリキュラムの進捗	1 適切 6名 2 適切でない 1名	・病棟実習中に見学実習があつたり、通院治療室の実習も中途半端になってしまいました ・実習期間でも1日講義が入ってもいいと思う
2) 実施方法	(1) 時期	1 適切 0名 2 別の時期がよい 9名	・冬でなければいつでもよい(9名) ・年を越さない方がいい ・受け入れは新人教育もあるので、秋から12月まで・冬は通勤が大変
	(2) 実施期間	1 40日連続 5名 2 2~3回に分けた方がよい 3名	・前半の十種が終わったところで、一区切りあつたので身体も気持ちも休む事ができよかった ・一度中断するとモチベーションが下がるので再開する時が大変 ・連続でも1週間くらい期間が空くと気持ち的にもゆとりが出来ると思います ・一人目の症例が終わったら、まとめるために少し空いた方がいいと思うが、それ以上は空けない方がいい ・空いた時間は現場の勤務をしたりするため、両方の事を考えるのは大変 ・モチベーションを保つためには良い ・今回のような正月休みは良かった
3) 研修体制	(1) 担当者の配置	1 適切 4名 2 適切でない 3名	・なるべく専門でいて欲しかった ・せめて病棟で一人の指導係がいるとよい ・できれば専任で指導をして欲しかった
	(2) 施設面	1 適切 9名 2 適切でない 0名	・実習施設は大学病院でなくても自分の病院と似た患者層の病院でもよい ・信大病院でないといけないかどうか、わからない ・新しい知識を身につけられる事はよい
2. 研修の位置づけ(資格取得無) (ライセンス等に資格がなく、一般研修であること) 複数回答	1 現行のままでもよい 0名 2 厚生労働省からの修了書の発行 3名 3 認定看護師の受講資格要件の研修とする2名 4 その他 2名	・どんな形でも現行のままでは切ない ・県で認められた専門看護師と、名乗れるような資格はあってもいいと思います ・県の認定資格がとれるような研修内容にもらえるといののではない ・院内認定資格として欲しい ・長野県限定でも良いので、資格を	
3. 研修全般に対する満足度	1 大変満足 1名 2 満足 7名 3 満足でない 0名	・他の施設の看護を知る事が出来た事は有意義だった ・ほとんどの疾患の最新治療について、学んだり他の施設に行く機会はずりないので良かった ・良い学びとなった	

4. 研修に対してのご意見感想、今後の研修に望むことをお書きください。

- ・がん看護というタイトルだから、全てが苦しかったと思います。がん看護の中の緩和とかわかれていると、深くできたのでは。実習もがん看護って難しいです
- ・例えば、実習期間を長くして、何人が受け持った方が効率的にできるのか、他県のやり方と比べてみたらどうでしょうか
- ・研修の人数はこれくらいよかった
- ・担当者の配置は必要であると思うが、指導内容のバラつきがあるので統一できたらよい
- ・記入用紙が何枚かあって記入しにくいもの、不要のものがある。化学療法の用紙や他施設時の記入用紙は記入し易かった。
- 1日の感想を書く用紙や、内科・外科病棟の実習評価表は学生ではないので不要と思われる。
- ・今回1回目の症例のアセスメントのところ止まって進めない人がいた。その時研修生の間で相談に乗ろうと思っても、その答えが間違っていたらと思うと相談にも乗る事が出来なかった。出来たら講義の中でアセスメントについてやって欲しかった
- ・訪問や緩和ケア病院の実習日がギリギリにわかったのももう少し早めに知りたかった。前泊する人もいたので。
- ・指導者の方には細かな所で気を使ってもらうなどと配慮してもらい感謝している
- ・本もいろいろと準備してもらい、コピーなども自由に使わせてもらった
- ・時間外ではあったがスピリチュアルケアの講習会に参加できてよかった
- ・この研修で最近の治療や他施設で学ぶ事で視野は広がった。しかし、がん看護といったら緩和・疼痛・化学療法などの認定看護師がいるように分野はとても広い。
- この期間に全てを学び取るのは、広く浅くなってしまうかもしれないので、看護のポイントのあたりをもう少し深められればよかった
- ・研修生の定員はこれ以上多くなると、指導者の方の負担が多くなってしまう・勉強にはなりました。自分の知識の低さを感じたり、自施設の出来ている事出来ていない事について考えるいい機会になったと思います
- ・初めての研修ということで、指導者の方々もご苦労があったと思いますが、実習をするにあたり、他のスタッフが「誰」「何」みたいな態度で受講生も困ってしまった
- ・今後回数を重ねて、更に良い研修になっていくことを望みます
- ・他の施設での研修ということで緊張したが、研修で病院の違いや他の研修生の考えなども聞けてよかった
- ・前半に講義が集中し、後半に実習が集中してしまうと研修生自身に負担が大きくなってしまふ。週1~2日間でもよいので、実習期間中でも講義をいれるとよいのでは
- ・それぞれ目的を持って参加しているので、実習目標になるべく添えるような患者選択もしくは、化学療法ならば治療センターでの実習を多く取り入れる目的に答えられるように配慮してもらえるとよい
- ・がん看護の研修で実習に行ったが、アセスメントに手間取り、がん看護の実践が学べたのか不安である。学ぶべき範囲が広すぎるように思う。もっとポイントを絞った方が、学ぶ側にとっては学び易い
- ・今回の受講生は9人だったが、定員いっぱいだったら研修生の希望する実習が出来なかったのではないかと
- ・初めての試みであり、主催側と受講生それぞれが、手探りの中で進めてきた研修であったと思います
- ・それぞれの意見・反省・改善点を基に、更に良い研修にしていけばよいのでは
- ・緩和ケア実習が1日の人と2日の人がいるのは違和感がある
- ・集中的にがん看護を学ぶことができ、多くの知識を得ることが出来た。地方病院では関わりのない高度な医療を知る機会となり、今後看護師として医療に携わる上で、知っておくべきことや参考になることを学ぶ事ができた
- ・実習を通して一人の患者さんにじっくりと関わる事で、がん看護の大切さを改めて実感する事ができた
- ・がん看護はとても重要な疼痛コントロール、症状緩和、終末期にある患者の看護をホスピスなどでじっくり実習を通し、学びたい。
- ・もう少し、細く、期間が長くてもよいので講義を聞きたかった・がん看護は幅が広すぎるため、40日では習得できない。細分化したほうがよい

項目	評価	意見
1	①実施 4名 ②未実施 1名	・看護部に所属していなかったためか、伝達講習の依頼はこなかった
2	①書面 ②会議・研修会 4名 ③その他	
3	①はい 3名 ②いいえ 2名	・研修前と大きく変わりなし ・業務に追われてしまい、ゆっくり関われない現状がある ・がん患者の比率が小さい病棟でもある
4	①病棟内における勉強会 2名 ②病院内における勉強会 ③緩和ケアチームの立ち上げ 1名 ④院内または病棟内の教育係 3名 ⑤地域との連携 ⑥その他	・今までチーム内で一人指導的役割の方がいましたが、一緒に指導をさせてもらっています ・病棟内勉強会を2回、デスクカンファレンスの内容見直しをおこなった ・資料提供、医師へも意見を伝え新しい情報を伝えることができた
5	①一人で企画・実施した ②協力者と企画・実施した 3名 ③別の企画・実施者に協力した ④その他	
6	①協力が得られた 4名 ②協力が得られなかった	
7	①希望する 3名 ②希望しない 2名	・その後の研修生がどのような活動をしているのか知りたい ・指導的役割をとっていく上で大切なこと、気をつけること、関わり方
8	<意見> ・研修の時はお世話になりました。これきりにならず交流できたら勉強にもなると思いますので、今後ともよろしく願います。 ・最終日に発表したケースレポートについてですが、身体的にも精神的にもギリギリの余裕の内状態でまとめたものであり、落ち着いたところでその評価や改善した方が良い点など聞かせてもらえると振り返りができると思う。形にはしたものの、これで良かったのかなという思いが残っている。 ・東京で行われたあるがん看護の研修に行った際「毎年行われているが、参加人数が少なくなって残念。でも、その理由にがん看護について最近勉強会や研修会がかなり増えてきているため、そのとき、行きたい内容、行きたい場所にいつでも行ける環境になってきたからだと思われる」と話されていた。そのため、フォローアップ研修は希望しない。 ・平成22年度に「がん相談支援センター」を院内に設置する事業を進めており、相談員として働く予定。国立がんセンターでの研修会もありますが、ぜひ研修会に参加してほしい。	

平成21年度 長野県がん看護臨床実務者研修会 アンケート

1/18現在 回収3名

評価項目	評価	意見
1. 研修計画		
1)教育計画	(1)全体の目標設定 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	・疾患から在宅まで幅広い目標設定で学ぶべきことの多さを実感した。しかし、これから学ぶ者には目標が難しく、解するのが困難だった
	(2)講義内容 1 適切 2名 2 適切でない 1名	・講義内容は良かった。しかし講義期間が短く、その期間で理解することは困難であり実習で知識を活用するまで至らなかった ・医師の講義の基礎的疾患については不要だと思う
	(3)実習 1 適切 2名 2 適切でない 1名	・期間が長く、受け持ち患者2~3名は身体的にも精神的にも大変だった ・患者さんのことで気が減ってしまい辛かったが、同時期に持たせていただいた患者さんもあり、気持ちの切り替えなど精神的に辛かった。また自分の未熟さ故、アセスメントシートもスムーズにはいかずその勉強や記録で身体的にも辛かった
	(4)緩和ケア実習 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	・減多にいけるところではないため、貴重な体験になった。実習先の指導者さんも素敵な方で、その方の姿勢や考えに学ぶところがあった
	(5)在宅実習 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	・就職してから初めての経験だったため、よい経験になった
	(6)カンファレンスの実施 1 適切 2名 2 適切でない 1名	・グループワークや事例検討会では自ら考えることで講義の振り返りや理解できていないことがわかり、いい時間だった ・自分の知識が未熟で、意見交換の場にならなかった
	(7)ケースレポートの発表 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	・ケースレポートを仕上げることに苦労した。(これも自分の未熟さが故と思うが)また、実習記録も提出できるように整理しておかなければならないと思い、同時進行でのレポートだったので時間がなく大変だった。前例を参考にみたかった
	(8)カリキュラムの進捗 1 適切 2 適切でない 3名	・ケースレポートのまとめにも少し時間がほしかった ・講義が短く実習が長いと実感した。講義において目標を網羅することは困難であった
2)実施方法	(1)時期 1 適切 3名 2 別の時期がよい()月頃)	
	(2)実施期間 1 40日連続 3名 2 2~3回に分けた方がよい	
3)研修体制	(1)担当者の配置 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	・認定看護師さんの知識の豊富さ、凄さを知り、感銘をうけた。忙しい中で講義や指導を行っていただきありがとうございました。しかし何か壁のようなものを感じることがあり、こちらの不手際、無礼があったのかと心配しております
	(2)施設面 1 適切 3名 2 適切でない(理由:)	
2. 研修の位置づけ(資格取得無) (ライセンス等に資格がなく、一般研修であること) 複数回答		
1 現行のままよい 2名		
2 厚生労働省からの修了書の発行 1名		
3 認定看護師の受講資格要件の研修とする 1名		
4 その他()		
3. 研修全般に対する満足度		
1 大変満足		
2 満足 3名		・たくさん学ばなければ良い看護はできないかもしれないが、求められていることが高いように思いついていくのが大変だった。しかし新しい知識として学ぶことができ充足した。講義や実習先での指導者さんがとても素敵な方々であり、お会いできたことだけでも学びとなった
3 満足でない		
4. フォローアップ研修開催の希望について		
1 希望する 1名		
2 希望しない 2名		

5. 研修に対してのご意見ご感想、今後の研修に望むことをお書きください。

- ・研修資格は、臨床経験10年目以上でないと内容的に厳しいと思う。
- ・実習前にデータベース、アセスメントシートについての説明および分析方法について指導があるとよいと思う。エクセル入力はやりにくかった。
- ・今まで知らなかったことを教えていただき、新たに学ぶことができ、深さを知った。患者さんを看るといことはたくさんの知識を持っていなければならないとあらためて感じた。
- ・研修が始まるまでの提出課題や目標などにおいてどう書いて書いていいのが困った。
- ・ケースレポートが大変だった。
- ・頂いていた実習記録の取り扱い(提出の必要性)について教えてもらいたかった。(見学実習先の指導者さんに「後で感想みたいなものをもらおうと思う」と聞いていたので)
- ・緩和ケアについて、実際に患者さんを受け持たせて頂きながら研修でき、文献だけでなく実際を知ることができた。
- ・講義時間が短く、一度にすべてを学ぶのが大変だった。
- ・実習で2人受け持つのは展開が忙しく感じた。講義と実習の時間配分を検討してもらいたい。

<p>6. 研修終了後、研修報告の伝達を実施</p>	<p>1実施した 2名</p> <p>実施方法(複数回答)</p> <p>書面 1名 会議 1名 研修会 1名</p> <p>2実施していない 1名</p>	<p>・1~3月に月1回ペースで病棟勉強会を行う予定</p> <p>・まだ実施していないが、これから行う予定</p>
----------------------------	--	--

7. 所属施設に戻り、今後あなたが取り組みたい目標について主なものを1つお書きください。

- ・エンドステージでの精神的援助
- ・緩和ケアチームとの連携を積極的に行い、情報交換を通じ患者さんへの看護の充実を図ったり、自ら知識を増やし他スタッフへの伝達を行っていく
- ・研修会で学んだ内容を他のスタッフへも伝えていく